

禁煙科学 最近のエビデンス 2018/02

さいたま市立病院 館野博喜

Email:Hrk06tateno@aol.com

本シリーズでは、最近の禁煙科学に関する医学情報を要約して紹介しています。医学論文や学会発表等から有用と思われたものを、あくまで私的ではありますが選別し、医療専門職以外の方々にも読みやすい形で提供することを目的としています。より詳細な内容につきましては、併記の原著等をご参照ください。

2018/02 目次

- KKE228 「職場が禁煙でも喫煙者の喫煙ペースは変わらない」
- KKE229 「喫煙量を5%に減らしても心血管疾患リスクは50%にしか減らない」
- KKE230 「再喫煙は起きる時期によって原因が異なる」

KKE228

「職場が禁煙でも喫煙者の喫煙ペースは変わらない」

Dunbar MS等、Addict Behav. 2018 Jan 6;80:53-58. (Epub ahead) PMID: 29348060

- 職場禁煙により、禁煙チャレンジが増えたり喫煙率が減るなど行動変容が生じることは重要である。
- 米国の喫煙者は職場で禁煙を強いられており、離脱症状を避けるための喫煙のペースが崩されるが、それでも減煙量は1日あたり1-3本に過ぎないことは驚きである。
- 吸い方を変えたり吸いだめをしたり、あるいは別の場所に移動して吸ったりして、ニコチン濃度を維持しようとしているかもしれないが、そのような代償行動と職場禁煙の関連を詳細に調べた報告はない。
- 今回、生態学的経時的評価法（EMA）を用いて調査を行った。
- 対象は2007年11月から2010年4月に喫煙パターンを調べた研究に参加したピッツバーグ住民で、1日5-30本の喫煙をし、3年以上の喫煙歴があり、禁煙希望のない21歳以上成人とした。
- 生態学的経時的評価法（EMA）を用い、喫煙行動をリアルタイムに3週間電子的に記録させ、喫煙中に1日4回、非喫煙時に3回、ランダムに質問を行い回答を得た。
- 〈質問の例〉：「就労中ですか？ 職場ですか？ 家ですか？ 禁煙の場所ですか？」など。
- 5日以上EMAデータの得られた124人を解析し、平均は20.57日（SD=4.00）であった。
- 仕事時間は午前9時-午後5時、月-金曜日と設定し、EMA結果から実際87%がそのようであった。
- 一日を、起床から午前9時まで（仕事前）、午前9時-午後5時（工作中）、午後5時-午後9時（仕事後）、午後9時から就寝まで（夜間）、の4つの時間帯に区分した。
- 職場と家庭の禁煙レベルは、屋内全面禁煙、分煙、規制なし、に分類した。
- 尿検査にてニコチン代謝比を測定した。
- 混合モデルと一般化推定方程式を用い、一日の時間帯、平日か週末か、職場の禁煙レベルの3者が、1時間あたりの喫煙本数、吸うための場所の移動、におよぼす影響を解析した。
- 参加者の平均年齢は39.96歳（SD=10.69）、一日喫煙本数10.90本（SD=6.38）、FTNDの平均値5.14（SD=1.94）であった。
- 職場は全面禁煙が52%、分煙が31%、規制なしが18%であった。
- 一方、家庭では、全面禁煙18%、分煙23%、規制なしが60%であり、職場と家における喫煙規制に有意な関連は

なかった。

→全面禁煙はホワイトカラーで84%、ブルーカラーで37%であり、職業で差があった ($p < 0.0001$)。

→職場の禁煙レベルは、1日喫煙本数やニコチン依存度、ニコチン代謝比と関連がなかった ($p > 0.15$)。

→喫煙中の質問では、回答の91%が禁煙場所ではないとし、非喫煙時の質問では、83%が禁煙場所ではないと回答していた。

→職場の禁煙場所で喫煙しているとの回答は1.76%のみだった。

→1時間あたりの喫煙本数は、仕事中に下がり、夜間に最大になった。

→1時間あたりの喫煙本数は、平日(平均0.88本)のほうが週末(0.84本)より、わずかだが有意に多かった ($p < 0.05$)。

→職場の禁煙レベル、一日の時間帯、平日か週末か、の3者の間には相互関係があった ($p < 0.01$)。

→規制なしに比べ職場が分煙の人は、平日の夜間の喫煙が増えた。

→仕事中の1時間あたり喫煙本数は、職場の禁煙レベルでは差がなく、ニコチン依存度やニコチン代謝比も無関係であった ($p > 0.16$)。

→喫煙中の質問では、回答の31%が吸うために場所を移動したと答えていた。

→吸うために場所を移動したのは、仕事中が他の時間帯より有意に多く、他の時間帯と比較したオッズ比は、仕事前 (OR=1.75 (95% CI: 1.33-2.30); $p < 0.0001$)、仕事後 (OR=1.21 (1.01-1.45); $p = 0.04$)、夜間 (OR=1.60 (1.27-2.02); $p < 0.0001$)、であった。

→また、平日の午前9時-午後5時のほうが週末の同時間帯よりも、吸うために移動していた (OR=1.45 (1.16-1.83); $p < 0.001$)。

→職場の禁煙レベルは、吸うための移動と関連していなかった ($p = 0.48$)。

→平日の仕事中では、禁煙場所であるとの回答率が10%増えるごとに、吸うために移動する割合が11%有意に増えた (OR=1.11 (1.05-1.16); $p < 0.0001$)。

→職場が禁煙でも喫煙者の喫煙ペースは変わらない。

<選者コメント>

米国から、禁煙の職場で仕事中の喫煙行動がどうなっているか、携帯機器を用いてリアルタイムに調べた報告です。

禁煙のルールは良く守られていましたが、平日の一日喫煙量は週末より減ってはならず、帰宅してから多く吸い、また仕事中も場所を移動して吸っていることが分かりました。吸うための移動は、喫煙規制に触れる機会が多いほど生じやすくなっていました。さらに、一日の喫煙のペースは平日と週末でほとんど変わっておらず、仕事時間中も定期的に喫煙していることが伺えました。

日本とは異なる面も多いのだろうとは思いますが、タバコが嗜好品ではなく、依存を維持する“嗜癖品”であることがあらためて分かります。職場やキャンパスの禁煙化には、禁煙を促す効果があり、北陸先端科学技術大学院大学の45分ルールのように、さらに一歩進んだ政策も禁煙の後押しをしてくれることと思われます。

<その他の最近の報告>

KKE228a 「無煙タバコ使用と致死的冠動脈疾患リスクは関連する：世界のデーターのメタ解析」

Gupta R等、Nicotine Tob Res. 2018 Jan 9. (Epub ahead) PMID: 29325111

KKE228b 「禁煙後に体重が増えても心筋梗塞や脳卒中のリスクは低下する：韓国の前向き調査」

Kim K等、Eur Heart J. 2018 Jan 6. (Epub ahead) PMID: 29324990

KKE228c 「タバコ葉から新規成分3種を分離し生物学的活性を検証した」

- Shang S等、Nat Prod Res. 2018 Jan 19;1-7. (Epub ahead) PMID: 29350056
- KKE228d 「HIV陽性喫煙者へのバレニクリン投与は有効かつ安全：フランスの第3相無作為化試験」
Mercie P等、Lancet HIV. 2018 Jan 9. (Epub ahead) PMID: 29329763
- KKE228e 「 バレニクリンはPTPシートから一包化ケースに入れ替えて使用しても問題ない（42日間の検証）」
Drovandi AD等、Integr Pharm Res Pract. 2017 Jun 23;6:131-135. PMID: 29354559
- KKE228f 「カップルが禁煙するとき互いの成功体験と自己効力感はどう連動するか」
Warner LM等、Br J Health Psychol. 2018 Jan 15. (Epub ahead) PMID: 29333730
- KKE228g 「喫煙とパーキンソン病の逆相関に関連する2つの遺伝子多型の同定：2つの横断調査より」
Lee PC等、Neurology. 2018 Jan 19. (Epub ahead) PMID: 29352099
- KKE228h 「肺疾患のない喫煙者も喫煙量依存性に肺機能が低下している」：日本からの報告
Osanai S等、Respir Investig. 2018 Jan;56(1):21-27. PMID: 29325676
- KKE228i 「家庭での受動喫煙による女性の肺機能低下は夫からの受動喫煙で最大」：日本からの報告
Suyama K等、Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2017 Dec 28;13:149-155. PMID: 29343954
- KKE228j 「日本人女性は非喫煙により、男性は家族とのつながりにより英国人より長生きする」：日本からの報告
Aida J等、Gerontology. 2018 Jan 18. (Epub ahead) PMID: 29346791
- KKE228k 「喫煙による日本人の肺癌発症予測モデルの開発」：日本からの報告
Charvat H等、Cancer Sci. 2018 Jan 18. (Epub ahead) PMID: 29345859
- KKE228l 「英国の害低減喫煙政策はタバコ産業が関与した過去の理論に基いている」
Elias J等、Tob Control. 2018 Jan 12. (Epub ahead) PMID: 29330172
- KKE228m 「タバコの店頭陳列禁止法は喫煙率を下げている；77か国のデータから」
He Y等、Tob Control. 2018 Jan 13. (Epub ahead) PMID: 29332006
- KKE228n 「高齢喫煙者は骨密度と骨皮質量の減少が速い」
Marques EA等、Bone. 2018 Jan 10;108:186-192. (Epub ahead) PMID: 29331300
- KKE228o 「喫煙者は耳管機能が低下している」
Pezzoli M等、Int Tinnitus J. 2017 Dec 1;21(2):98-103. PMID: 29336126

KKE229

「喫煙量を5%に減らしても心血管疾患リスクは50%にしか減らない」

Hackshaw A等、BMJ. 2018 Jan 24;360:j5855. PMID: 29367388

<http://www.bmj.com/content/360/bmj.j5855.long>

→喫煙率はいくつかの国では低下してきているが、全世界の喫煙人口は、人口増加の影響で増えている。

英→国や米国では、1日10本未満の少量喫煙者の割合が増えている。

→喫煙量を減らすと、それに比例して害も減る——たとえば、1日1本なら1日20本の5%に害も減る、と考えられやすい。

→これは肺癌については正しいようだが、心血管疾患については、少量の喫煙でも害は急激に増加する。

→BMJ誌に20年前に報告された受動喫煙のシステマティック・レビューでは、受動喫煙による冠動脈疾患のリスクが1.3倍と、かなり大きく注目された。

- 今回、少量喫煙の大規模システマティック・レビューを、脳卒中も含めて行った。
- 1946年から2015年5月に喫煙量と冠動脈疾患・脳卒中の関連を報告した英語の文献を、MOOSEガイドラインに沿って検証した。
- 50件以上の心血管事象（死亡・発症）を含む前向きコホートで、年齢で補正されたハザード比が相対リスクが報告されているもの、
- 対象者が高リスク集団でなく健常人であるもの、男女別に報告されているもの、を対象とした。
- 相対リスクと喫煙量の関係を、対数線形分散加重回帰モデルで解析した。
- 喫煙量が増えると吸入量が減ることを考慮し、喫煙量はCOHbやコチニン値で補正した。
- 1日1本の喫煙で増加する相対リスクを、1日20本の場合の増加リスクとの比率（過剰相対リスク率）で求めた。
- たとえば、1日1本と20本での相対リスク増加が、各々1.4と1.9の場合、 $(1.4-1)/(1.9-1) \times 100 = 44\%$ と算出した。
- メタ解析は141件のコホート研究から行った。

冠動脈疾患

→1日の喫煙本数と疾患の相対リスク（非喫煙者に対する）、1日20本喫煙と比較した過剰相対リスク率、は下記であった。

性別	喫煙本数	相対リスク (95%CI)	過剰相対リスク率 (四分位範囲)
男性	1日20本	2.04 (1.86-2.24)	100%
	1日5本	1.58 (1.39-1.80)	57% (36-64%)
	1日1本	1.48 (1.30-1.69)	46% (24-56%)
女性	1日20本	2.84 (2.21-3.64)	100%
	1日5本	1.76 (1.46-2.13)	43% (14-55%)
	1日1本	1.57 (1.29-1.91)	31% (2-46%)

→1日1本喫煙の過剰相対リスク率を年齢別に見ると下記であった。

男性；45歳＝35%、55歳＝33%、65歳＝20%

女性；45歳＝11%、55歳＝15%、65歳＝36%

（女性では高齢ほど高くなったが、3報のみでの解析であった。）

脳卒中

性別	喫煙本数	相対リスク (95%CI)	過剰相対リスク率 (四分位範囲)
男性	1日20本	1.64 (1.48-1.82)	100%
	1日5本	1.30 (1.18-1.43)	52% (9-70%)
	1日1本	1.25 (1.13-1.38)	41% (-7-62%)
女性	1日20本	2.16 (1.69-2.75)	100%
	1日5本	1.44 (1.22-1.70)	44% (16-60%)
	1日1本	1.31 (1.13-1.52)	34% (3-51%)

→1日1本喫煙の過剰相対リスク率を年齢別に見ると下記であった。

男性；45歳＝22%、55歳＝25%、65歳＝15%

女性；45歳＝24%、55歳＝20%、65歳＝14%

→観察期間中に重喫煙者が軽喫煙に変化した可能性も考慮し、軽喫煙の風潮が生じたと思われる1996年以降の報告を除外して解析したが、結果は変わらず、相対リスクへの影響はないと考えられた。

→年齢以外の、コレステロール・血圧等の交絡因子を、補正した研究としていない研究で分けて解析すると、補正した研究のメタ解析のほうが過剰相対リスク率は高くなっていた（メタ回帰による1日1本喫煙の過剰相対リスク率；冠動脈疾患：男性=53%、女性=38%、脳卒中：男性=64%、女性=36%）。

→また補正した1日1本喫煙の相対リスクは、冠動脈疾患も脳卒中も、女性のほうが男性より高くなっていた。

→コホート研究の質についてはNewcastle-Ottawaスケールで評価したが、良質と判定された研究に限って算出した相対リスク値は、全研究から求めた相対リスク値よりも、低いことはなくかえって高かった。

→1日1本の喫煙でも、心血管リスクは1日20本の半分にしか減らない。

<選者コメント>

冠動脈疾患（心筋梗塞や狭心症）と脳卒中について、1日20本の喫煙と1日1本の喫煙の影響の違いを、過去70年間に報告されたコホート研究のメタ解析で検証した報告です。

追跡総数1,300万人、発症数25万例という大規模解析です。20本と1本では、喫煙量は20分の1で5%に減りますが、冠動脈疾患のリスクは男性で53%、女性で38%、脳卒中のリスクは男性で64%、女性で36%、残っており、喫煙量の減少と血管リスクの減少は、比例しないことが分かりました。

IQOSなどの加熱式タバコの謳い文句は「有害性成分の90%低減」ですが、これがイコール「疾患リスクの90%低減」を意味しないことが間接的に分かります。また相対リスク自体の比較からは、少量喫煙の血管リスクは女性のほうが男性より高く、喫煙本数が少なめの女性の喫煙もリスクが高いことが分かります。

<その他の最近の報告>

KKE229a 「電子タバコの煙は肺・心臓・膀胱のDNAを損傷し回復を障害する（ネズミと細胞の実験）」

Lee HW等、Proc Natl Acad Sci U S A. 2018 Jan 29. (Epub ahead) PMID: 29378943

KKE229b 「未青年期の喫煙経験が多いほど成人後の喫煙率が高い」

Dutra LM等、Prev Med. 2018 Jan 20. (Epub ahead) PMID: 29366819

KKE229c 「禁煙補助薬の有益性は1年後には半分以下になるが残る：RCTのメタ解析」

Rosen LJ等、Addiction. 2018 Jan 29. (Epub ahead) PMID: 29377409

KKE229d 「紙巻以外のタバコ製品も値上げと需要は逆相関する：メタ解析」

Jawad M等、Tob Control. 2018 Jan 23. (Epub ahead) PMID: 29363611

KKE229e 「軍隊訓練における筋骨格損傷と喫煙の関連：メタ解析」

Bedno SA等、Med Sci Sports Exerc. 2017 Nov;49(11):2191-2197. PMID: 28614193

KKE229f 「電子タバコを使用する若年成人は1年半以内に喫煙する割合が6.8倍高い」

Primack BA等、Am J Med. 2017 Dec 11. (Epub ahead) PMID: 29242110

KKE229g 「家庭で受動喫煙を受けている女性は認知機能の低下が速い（中国）」

Pan X等、Am J Epidemiol. 2018 Jan 12. (Epub ahead) PMID: 29370335

KKE229h 「完全自動化ネット禁煙支援プログラムの無作為化比較試験」

Nguyen Thanh V等、Nicotine Tob Res. 2018 Jan 23. (Epub ahead) PMID: 29370407

KKE229i 「禁煙支援アプリSSC Appは有効：多国二重盲検無作為化比較試験」

BinDhim NF等、BMJ Open. 2018 Jan 21;8(1):e017105. PMID: 29358418

KKE229j 「喫煙の味覚・嗅覚への影響：文献のシステマティックレビュー」

Da Re AF等、Int Arch Otorhinolaryngol. 2018 Jan;22(1):81-87. PMID: 29371903

KKE229k 「喫煙は脊椎固定術の合併症を増やす：文献レビュー」

Berman D等、Int J Spine Surg. 2017 Nov 28;11:29. PMID: 29372133

KKE229l 「電子タバコの放出カルボニルに関するシステマティックレビュー」

Farsalinos KE等、Front Physiol. 2018 Jan 11;8:1119. PMID: 29375395

KKE229m 「喫煙は顕微鏡的大腸炎のリスクを上げ禁煙は下げる：米国女性の大規模コホート」

Burke KE等、J Crohns Colitis. 2018 Jan 23. (Epub ahead) PMID: 29370359

KKE229n 「カップルの片方か両方が喫煙者かどうかで喫煙・禁煙行動はどう異なるか」

Tooley EM等、Couple Family Psychol. 2017 Jun;6(2):106-116. PMID: 29375932

KKE229o 「人工授精時の子宮内膜厚は喫煙女性では低値である」

Heger A等、Geburtshilfe Frauenheilkd. 2018 Jan;78(1):78-82. PMID: 29375149

KKE229p 「米国海軍兵における電子タバコ使用は予想以上に多い」

Hall MT等、Mil Med. 2018 Jan 20. (Epub ahead) PMID: 29365191

KKE229q 「韓国にバレニクリン治療を導入した場合の投資利益率は1.6と推測される」

Connolly MP等、J Med Econ. 2018 Jan 29:1-17. (Epub ahead) PMID: 29376747

KKE229r 「公共の場でのタバコや電子タバコの使用を注意したいと思っている人の社会心理的特徴」

Bigman CA等、Health Commun. 2018 Jan 24:1-11. (Epub ahead) PMID: 29364737

KKE229s 「禁煙後も喫煙刺激に対する注意バイアスは残存する」

Rehme AK等、Eur Neuropsychopharmacol. 2018 Jan 19. (Epub ahead) PMID: 29371023

KKE229t 「インスリン点鼻は禁煙直後の認知機能低下を改善しなかった」

Hamidovic A等、Hum Psychopharmacol. 2018 Jan 24. (Epub ahead) PMID: 29363182

KKE229u 「バレニクリンによるパニック障害の一例」

Nomani S等、Ann Pharmacother. 2018 Jan 1:1060028018755162. (Epub ahead) PMID: 29363353

KKE230

「再喫煙は起きる時期によって原因が異なる」

Yong HH等、Addiction. 2018 Feb 6. (Epub ahead) PMID: 29405520

→これまで多くの研究は喫煙者に禁煙を試みさせることを主眼としてきたが、禁煙チャレンジと禁煙の維持とは異なる問題であることが確立されている。

→再喫煙に影響する因子として、ニコチン依存、動機、自己効力感、社会環境、禁煙支援使用の有無、などが知られている。

→我々は禁煙には3つの段階があることを見出してきた。

- 1) 禁煙初期数日間の実行期間
- 2) その後自己管理を行う強化期間
- 3) 最終的に禁煙を目的視しなくなる総集期間

であり、個別自動化禁煙プログラムQuitCoachでも利用され効果を得ている。

→禁煙補助薬は喫煙欲求を減らすことで、新しい習慣が身につくための時間を稼げるが、習慣が安定化する前に薬が終わると強化期間が長引き、自己管理で消耗して禁煙疲れとなり、総集期間での再喫煙が増えると思われる。

- 再喫煙の要因が、禁煙後の期間とともにどのように変化するか、検証された研究はない。
- 今回、米国、カナダ、英国、豪州で行ったITC-4のデータから解析を行った。
- ITC-4は4か国で2002年から2015年にほぼ毎年行われた縦断的コホートで、各国約2,000人の成人喫煙者を、脱落分を補充しながら継続された。
- 18歳以上、100本以上の生涯喫煙歴、過去30日以内の喫煙、のある者で、調査中に1日以上禁煙を試みた者(9,171人)を解析した。
- 禁煙開始前の予測変数としては、ニコチン依存(HSI(重喫煙指数)、1日喫煙本数、起床後から朝の1服までの時間、禁煙の困難感、前年の禁煙失敗)、どのくらい喫煙を楽しんでいるか、喫煙は人生の重要な一部か、禁煙の希望の強さ、禁煙の計画を決めているか、自己効力感の程度、健康のため少し早めに火を消したことがどのくらいあったか、喫煙者の友人の数、を調べた。
- 再喫煙は、1か月以上喫煙生活に戻ったことと定義した。
- 結果変数は再喫煙までの時間、制御変数は年齢、性別、年収、教育レベル、居住国、調査年、とした。
- 予測変数と再喫煙までの時間との関連を、比例ハザードモデルで生存解析した。
- 予測変数には相互に低から中等度の相関関係があったため($r=0.01-0.58$)、補正は、制御変数のみでの補正(モデルA)と、さらにすべての予測因子を加えた補正(モデルB)の2通りで行った。
- 禁煙後の期間は、1-7日目、8-14日目、15-31日目、1-3か月、3-6か月、6-12か月、1-2年、2年以降、の8つに分類し、再喫煙した時点以降は解析から除外した。
- ほとんどの予測因子は、再喫煙と禁煙後の期間に有意な相互関係があったが、喫煙を人生の一部と考える、早めに火を消す、禁煙の希望、の3者にはなかった。
- 予測変数ごとに、再喫煙と有意な関連があった禁煙後の時期を列挙すると下記であった。

	モデルA	モデルB
HSI	1日目-6か月	1日目-3か月
朝の1服までの時間*	1日目-6か月	1-7日目
1日喫煙本数	1日目-3か月	1日目-3か月
禁煙困難感	1日目-3か月	1-7日目と、1-2年
喫煙が楽しい	有意差なし	1日目-6か月
前年に禁煙失敗	1日目-6か月	1-7日目と、15日目-6か月
禁煙の計画が確定	1か月-1年	有意差なし
禁煙の自己効力感*	1日目-3か月	1-14日目と、1-3か月
喫煙する友人の数	15日目-6か月と 1-2年	1日目-2年 (3-6か月がピーク)
禁煙補助薬の使用		
再喫煙が減る	1-14日目	1-14日目
再喫煙が増える	1-6か月	3-6か月

(*;ただし、朝の1服までの時間、禁煙の自己効力感、に関しては、値が大きいほど上記期間の再喫煙が有意に減っていた。)

- ニコチン依存は初期3-6か月間の再喫煙に関連していたが、それ以降は有意でなく、関連の強さも時間とともに減弱した。
- 年齢が上がると1-6か月での再喫煙が減り、年収や教育レベルが上がると禁煙初期から1か月での再喫煙が減った。

→性別では再喫煙の時期に差は見られなかった。

→再喫煙に影響する背景因子は、再喫煙が起きる時期によって異なる。

<選者コメント>

禁煙後の再喫煙について、4か国9千人の喫煙者のデータをもとに、禁煙開始前に調べた背景因子と、再喫煙が起きる時期との関係を、禁煙からの期間を詳細に区切って対比した報告です。

ニコチン依存度が高いと、禁煙後約3か月間の再喫煙は多いものの、それ以降では再喫煙に影響していませんでした。このことから、ニコチン依存の影響は3か月ほどでほぼ解消されるとも解釈されます。1年以降の再喫煙のもとになっていた要因は、喫煙する友人の多さだけであり、2年目以降の再喫煙のもとになる要因は、今回は同定されませんでした。禁煙補助薬の再喫煙防止効果は、初期2週間に見られる一方、禁煙後3-6か月ではかえって再喫煙が増えていました。

以上、今回の結果を多少アレンジしてまとめてみると、禁煙初期の1-2週間は、薬物治療と自己効力感を高める支援が重要、1-3か月目は、自己効力感を高めながら自己管理を継続、3-6か月目は、治療薬終了後の油断と、過去の失敗の轍を踏まないことに注意、それ以降は、知人からのもらいタバコに一番注意が必要、とでもなるでしょうか。

禁煙開始や禁煙達成と同じくらい再喫煙の防止は重要であり、禁煙達成後の支援を行う際に、参考になる報告と思われます。

<その他の最近の報告>

KKE230a 「日本のタバコ値上げと禁煙検索数の関係：Google Trendsでの解析」：日本からの報告

Tabuchi T等、Nicotine Tob Res. 2018 Jan 31. (Epub ahead) PMID: 29394419

KKE230b 「退院後に禁煙できていると健康関連QOLが高い」

Levy DE等、Prev Med. 2018 Feb 7. (Epub ahead) PMID: 29427673

KKE230c 「熱いお茶とタバコや飲酒の常用が重なると食道癌のリスクが増える」

Yu C等、Ann Intern Med. 2018 Feb 6. (Epub ahead) PMID: 29404576

KKE230d 「ADHD患児は未成年のうちに喫煙を開始するリスクが高い（双子研究）」

Elkins IJ等、Am J Psychiatry. 2018 Jan 1;175(1):63-70. PMID: 28838251

KKE230e 「アフリカ諸国の学校防煙教育に関するシステムティック・レビュー」：日本からの報告

Nishio A等、PLoS One. 2018 Feb 6;13(2):e0192489. PMID: 29408895

KKE230f 「子供の環境タバコ煙曝露抑制のための大人への介入研究のkokラン・レビュー」

Behbod B等、Cochrane Database Syst Rev. 2018 Jan 31;1:CD001746. PMID: 29383710

KKE230g 「世界の水タバコ使用状況に関するシステムティック・レビュー」

Jawad M等、PLoS One. 2018 Feb 9;13(2):e0192191. PMID: 29425207

KKE230h 「水タバコの健康影響に関するレビュー」

Kim KH等、J Hazard Mater. 2016 Nov 5;317:229-236. PMID: 27285594

KKE230i 「世界各国のNRT使用に関する研究量の比較：文献計量的研究」

Zyoud SH等、Global Health. 2018 Jan 30;14(1):14. PMID: 29382348

KKE230j 「妊娠中のNRT使用は死産と関連しない：英国22万件のコホート」

Dhalwani NN等、Nicotine Tob Res. 2018 Jan 31. (Epub ahead) PMID: 29394405

KKE230k 「タバコ使用障害の脳回路画像化に関するレビュー」

Sutherland MT等、Trends Mol Med. 2018 Feb 2. (Epub ahead) PMID: 29398401

- KKE2301 「JTによる喫煙科学研究財団を介したタバコ政策と科学への干渉」：日本からの報告
Iida K等、Tob Control. 2018 Feb 4. (Epub ahead) PMID: 29437992
<http://tobaccocontrol.bmj.com/content/early/2018/02/03/tobaccocontrol-2017-053971/DC1/embed/inline-supplementary-material-1.pdf>
- KKE230m 「能動・受動喫煙と非アルコール性脂肪肝疾患は関連する：観察研究のメタ解析」
Akhavan Rezayat A等、SAGE Open Med. 2018 Jan 24;6:2050312117745223. PMID: 29399359
- KKE230n 「クロトンアルデヒドは可燃タバコの曝露指標である」
Bagchi P等、Environ Res. 2018 Feb 3;163:1-9. (Epub ahead) PMID: 29407484
- KKE230o 「マルコフモデルを用いたバレニクリンのタバコ死防止と費用対効果の検証」
Baker CL等、Clinicoecon Outcomes Res. 2018 Jan 19;10:67-74. PMID: 29403297
- KKE230p 「重度COPD患者へのバレニクリン6か月投与の禁煙効果：完遂例で37%、全例で18%」
Jimenez-Ruiz CA等、Monaldi Arch Chest Dis. 2017 Dec 19;87(3):874. PMID: 29424192
- KKE230q 「喫煙する親の教育レベルと子供の受動喫煙の関係」：日本からの報告
Saito J等、BMC Public Health. 2018 Feb 2;18(1):211. PMID: 29394912
- KKE230r 「喫煙と関節リウマチの関連には用量依存性と閾値がある：スウェーデンの症例対照研究」
Hedstrom AK等、Eur J Epidemiol. 2018 Jan 31. (Epub ahead) PMID: 29387991
- KKE230s 「オピオイド依存喫煙者の禁煙後離脱症状は通常喫煙者と差がない」
Streck JM等、Exp Clin Psychopharmacol. 2018 Feb 1. (Epub ahead) PMID: 29389213
- KKE230t 「遺伝子情報に基づく禁煙治療に向けて（レビュー）」
Ramsey AT等、Transl Behav Med. 2018 Jan 29;8(1):7-17. PMID: 29385591
- KKE230u 「喫煙量の増えていく喫煙パターンは低分化前立腺癌のリスクを高める」
Jimenez-Mendoza E等、BMC Cancer. 2018 Feb 7;18(1):160. PMID: 29415662
- KKE230v 「パートナーからの禁煙支援が期待度以下だと再喫煙しやすい」
Derrick JL等、Addict Behav. 2018 Feb 2. (Epub ahead) PMID: 29402563
- KKE230w 「Marlboro、Newport、Camelが米国中高生喫煙者に一番人気の銘柄」
Perks SN等、MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2018 Feb 2;67(4):119-124. PMID: 29389916
- KKE230x 「低所得喫煙妊婦への金銭的報酬禁煙介入は有効：無作為化比較試験」
Baker TB等、J Consult Clin Psychol. 2018 Feb 1. (Epub ahead) PMID: 29389142
- KKE230y 「加熱式タバコ煙は紙巻タバコ煙よりRNA発現刺激効果が少ない（細胞実験）」：BAT社
Haswell LE等、Sci Rep. 2018 Feb 5;8(1):1145. PMID: 29402904
- KKE230z 「加熱式タバコ煙の細胞実験系borgwaldt LM4Eの特徴」：BAT社
Adamson J等、Food Chem Toxicol. 2018 Feb 5. (Epub ahead) PMID: 29421647